



本康歯科ニュース



世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院をめざして！

安心安全な歯科治療を受けていただく為に

現在3回目の新型コロナワクチン接種が行われている中、こんな報告がありました。

3回目のコロナワクチン接種翌日に歯科医院を受診されて、抜歯を施術され、のちDIC（播種性血管内凝固症候群：体の血管の中で血栓（血の塊）ができやすくなったり、容易に出血したりする病気です。「播種性」とは全身に広がること、「凝固」とは血液が固まることを意味します。血管の中で凝固が過剰に起きることで、かさぶたのような血の塊（血栓）ができやすい状況になり、出血し、命に関わります。）で亡くなられる方がおられたようです（ご冥福をお祈り申し上げます。）。

昨年の中頃はニュース等で、コロナワクチン接種後、脳梗塞で亡くなられる方の報告が多数ありました。ほとんどが因果関係が不明で終わっています。今回の件も検死をされていない為、直接原因が何なのか詳細は不明だそうです。

まず、ワクチン接種と外科手術の適切な間隔について、エビデンスに基づく明確な基準はまだ報告されておきませんが、一定の見解があるようです。

ワクチン接種後から外科手術までの待機時間、日本医学会連合の提言では、ワクチン接種後の一過性の副反応がおさまる3日目以降に手術は可能としています。局所麻酔下および静脈内鎮静下で実施可能な智歯抜歯などの口腔外科小手術については、抜歯後1週間以降に（抜糸時に抜歯部位を確認した上で）ワクチン接種可能の許可を与え、ワクチン接種後であれば3日以上経過して副反応が軽度であれば抜歯等の実施は可能だと考えるそうです。ワクチン接種日には口腔外科小手術による抗菌薬や鎮痛薬を服用していない方が望ましい。なお、緊急性のある手術は上記に関係なく行うべきだと考えるそうです。

簡単に言うと緊急時以外、歯科治療において新型コロナワクチン接種前1週間と接種後3日の計10日間に抜歯やインプラント等の観血的手術を避ける事が望ましいようです。 普通の定期ケアや治療は大丈夫そうです。

また、带状疱疹ワクチンや肺炎球菌ワクチンも注意が必要のようです。ワクチン接種前後1週間の方はスタッフまでお声がけください。

歯とお口に
まつわる歴史

デンタルヒストリア

“歯”の漢字の成り立ちは？

“歯”という漢字は、どうやってできたと思いますか？ 漢字を見てみると“米”が使われていますが、これは日本人がお米を食べるからでしょうか？ それとも、奥歯の噛む面の溝が“米”のような形に見えるからでしょうか？ どちらもありそうな由来ですが、実際は違うようです。実は、“歯”の旧字は“𪔐”という漢字でした。口の中に人が4つ書かれています。これは口の中に歯が並ぶ様子を表しています。また、漢字の上には“止”が使われていますが、これは“シ”と発音することを示します。つまり、“𪔐”という漢字の成り立ちは、**その様子と発音と一緒に表現されたもの**だったようです。

